

2020年 定時社員総会 資料（議案書）

第1号議案	2019年度 事業報告	1
第2号議案	2019年度 収支決算報告	13
第3号議案	2020-2021年度 役員選任	18
(報告事項)	2020年度 活動方針	19
(報告事項)	2020年度 委員会等一覧	20
(報告事項)	2020年度 日本デザイン学会組織	22
(報告事項)	2020年度 事業計画	23
(報告事項)	2020年度 予算	29

第1号議案

2019年度 事業報告

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

2019年度の投稿論文数は、英文誌 “Journal of Science of Design” では33件、和文誌『デザイン学研究』では44件となった。掲載件数は、論文18件（英：7件、和：11件）、論説2件（英：2件、和：0件）、報告26件（英：11件、和：15件）となっている。ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げる。

また、東北芸術工科大学にて開催された日本デザイン学会秋季企画大会（2019年9月）において「新しい論文のかたち」と題した論文審査委員会公開討論会を実施し、多くの方にご参加いただき、ご意見をいただくことができた。

最後に、今年度多くの先生方に論文審査にご協力いただき、大変貴重なご意見やご指摘をいただいたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げる。
※以下のご協力いただいた先生方

記（敬称略、順不同）

Ahmad Aziz Hafiz, Chang Ikjoon, Chang Wei-Chi, Chen Li-Hao, Hung Chi-Sen, Li Shu Lu, Lin Chang-Rong, Lin Fang Suey, Loh Wei Leong, Wang Chao-Ming, Zhang Jue, Zheng MengCong, 青木 幹太, 蘆澤 雄亮, 池田 岳史, 石井 雅博, 石橋 圭太, 伊豆 裕一, 出原立子, 伊藤 孝紀, 伊藤 俊樹, 井上 征矢, 伊原 久裕, 今泉 博子, 岩城 達也, 植田 憲, 上田 彩子, 上田 一貴, 内田 康之, 遠藤 律子, 大鋸 智, 尾方 義人, 小川 直茂, 小野 健太, 柿山 浩一郎, 片山 めぐみ, 加藤 健郎, 北神 慎司, 木谷 庸二, 清須美 匡洋, 桐谷 佳恵, 金 正和, 工藤 芳彰, 久保 光徳, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 境野 広志, 坂本 和子, 佐々 牧雄, 佐々木 尚孝, 佐藤 公信, 佐藤 浩一郎, 佐藤 弘喜, 白石 光昭, 杉本 美貴, 曾我部 春香, 曾和 英子, 曾和 具之, 高野 修治, 田中 隆充, 田中 法博, 田中 みなみ, 田

中 吉史, 谷本 尚子, 田端 啓希, 田村 良一, 寺内 文雄, 中西 美和, 中本 和宏, 長尾 徹, 永盛 祐介, 野口 尚孝, 野田 勝二, 野宮 謙吾, 萩原 将文, 八馬 智, 原田 利宣, 橋口 孝之, 平尾 章成, 平田 一郎, 前川 正実, 村上 由美子, 村松 慶一, 森野 晶人, 柳澤 秀吉, 山内 貴博, 山本 政幸, 吉岡 聖美, 李俐慧, 羅 彩雲, 渡辺 慎二

作品審査委員会

委員長 杉下 哲

「デザイン学研究 作品集 25号（2019）」は、作品17件（内6件作品ムービー添付）の掲載を、J-Stageで電子刊行した。全投稿数は31件で、採択率は65%であった。今回採録にいたらなかった作品も含め、多くの投稿に感謝する。以下のURLにアクセスして閲覧できる。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/list/-char/ja>

募集・審査・編集・刊行の経緯は、6/28 春季研究発表大会などの作品募集の告知に始まり、8/31 投稿受付終了、9/9～10/8 第1次審査、11/18～12/9 第2次審査を経て、12/19 著者への採録結果通知を行った。1月下旬に編集内容協議して正文社へ刊行作業を依頼し、2月に正文社からの校正依頼や学会事務局からの掲載料請求が著者へされ、校了を経て、3月下旬に正文社から刊行作業終了の報告を受け、3/27にJ-Stage上で刊行した。複数回に審査いただいた専門審査委員の方々、募集から審査、編集までのプロセスを担った本委員会の委員と幹事のみなさまへ感謝する。

なお、今期（2018～2019）の2019年度は、2018年度に続き、より投稿しやすい仕組みづくりを継続的に努めたが、投稿数などには反映されず、いたらぬことが多い。次期へは、作品集投稿の更なる活性化を、論文集などとの関係や学会Webサイトでの情報提供なども含めて、引き継ぐ。

学会誌編集・出版委員会

委員長 井口 壽乃

2019年度の特集号は、前年度刊行が遅れていた1企画を含め以下の3冊が刊行された。

26卷2号（100号）「共創・当事者デザイン」（担当：岡本誠）、27卷1号（101号）「家具のデザインと技術：モノのデザインのこれまでとこれから」（担当：新井竜治、石川義宗、白石光昭、滝本成人）、27卷2号「社会実践のデザイン学」（担当：横溝賢）。各号とも特色ある内容であり、企画および編集担当者の皆様には、御礼申し上げる。委員：井口壽乃、加藤三喜、幹事：伊原久裕、田中佐代子。

研究推進委員会

委員長 小林 昭世

研究推進委員会の主な活動は、1 研究部会の活性化 2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営 3 秋季企画大会における企画運営などである。

2019年度は以下の活動を行った。1 活動中の研究部会と休止中の研究部会を区別する規則を整備した。また、新設された農業デザイン研究部会は活動を開始した。2 名古屋市立大学で開催される春季研究発表大会においてテーマセッションを募集した。テーマセッションにおける新たな取り組みとして、テーマセッションにおける2件のキーノート講演を実施した。3 東北芸術工科大学で開催される秋季大会にて学生プロポジションを実施した。なお、これらの活動は岡崎委員長をはじめとする企画委員会と連携しながら活動を行った。

2019度担当理事・幹事： 蘆澤雄亮、柿山浩一郎

企画委員会 総合企画

委員長 岡崎 章

2019年度の企画委員会・総合企画では、例年同様、春季と秋季の大会実施に取り組んだ。第66回春季研究発表大会は、「デザインとヒト：未来に向けて」をテーマに名古屋市立大学 桜山キャンパスにおいて開催した[6月28日]

(金)～6月30日(日)】。オーガナイズドセッションは、「先端医療からのヒトへのアプローチ」「これからの中社会人のデザインの学び」「リビングラボを活用した高齢者の生活における課題解決の手法」「デザイン学とデザイン科学、その本質～『デザイン科学事典』編纂が意味するもの」の4件であった。

秋季企画大会は、「おいしいデザイン」をテーマに東北芸術工科大学において開催した[11月8日(金)～10日(日)]。学生プロポジションは、9日12:20～13:50(デザイン工学実習棟A1階)で実施し、全国から18校54件のポスター発表が行われ、厳正なる審査の結果、17件に優秀賞を授与した。

企画委員会 支部企画

委員長 平松 早苗

2019年度の「教育成果集」は支部企画として対象を全国に広げ実施した。2020年度春季大会で配布の予定であったが、コロナの影響で春季大会が中止となつたため、配布時期は秋季大会となった。

教育・資格委員会

委員長 佐藤 浩一郎

2019年度の学会活動方針の1つである「研究・教育基盤の向上」のもと、学会各委員会と連携し、具体的な施策の計画・実行のための準備を進めた。

2019年度は、論文審査委員会と検討を重ね、秋季企画大会にて開催された「論文の新しいかたち」にて参加者とともに新たな講習会やセミナー実施の可能性を探った。引き続き、デザイン学領域における教育・研究の質的向上を高めるプログラムの実施に向けて活動を進めていく。

広報委員会

委員長 大島 直樹

広報委員会の主な活動内容である学会Webサイトの更新状態を報告する。

2019年度(2019年4月から2020年3月まで)は学会Webサイトにて85件のニュースやイベント記事が投稿された。内訳は、本部事務局による投稿が33件(投稿全体の39%)、支部・部会・委員会などによる投稿が52件(投稿全体の61%)であった。2018年度における投稿総数は80件だったため、2019年度は2018年度と比べて5件ほど投稿数が増加した。また2018年度における本部事務局と支部・部会・委員会などによる投稿件数の比率は60%と40%だった。このことから、この2年間における投稿状態はほぼ横ばいといえる。

また2017年度より開始した「会員の著書」は、2019年度は新たに8件を追加し、合計21件となった。2018年度における会員の著書の追加掲載は4件だったことから、増加傾向にあるといえる。

ニュースやイベントの投稿および会員の著書への申請などを促すことで、会員の学会活動の活性化が望まれる。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

2018年度の学会一般会計の収入は、およそ4500万円であり、繰越金を除いた収入に対する会員の会費収入は約67%を占めている。また、支出においては、繰越金を除いた実質支出割合は、本部事務局経費が約36%、学会誌編集出版関連経費が約39%を占めている。

こうした状況下、財務委員会の使命は、新たな財源の確保や支出の圧縮を進める事であるが、収支計画に係る会員数のタイムリーな把握と会員管理のための経費削減を目指し「会員管理システム」等について、他の委員会との情報交換を開始した。

市販図書企画・編集委員会

委員長 加藤 健郎

本年度は、日本デザイン学会編『デザイン科学事典』(丸善出版、松岡由幸編集委員長)を刊行するとともに、同事典に関する各種イベント(日本デザイン学会春季大会オーガナイズドセ

ッション、Designシンポジウム2019における基調講演・パネルディスカッション、デザイン塾～デザイン科学は『令和』時代のエスキースを描くか?～などを企画・実施した。執筆・編集・イベントに関わられた全ての方に謝意を示す。2019年度委員:佐藤浩一郎、幹事:蘆澤雄亮。

2019年度

春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 國本 桂史

日本デザイン学会第66回春季研究発表大会(大会長:郡健二郎)は2019年6月28日(金)～30日(日)、名古屋市立大学桜山キャンパスを会場に、名古屋市立大学の共催および名古屋市の後援で行われた。3日間の事前参加登録者数は474名、当日参加者数は111名、合計来場者数は585名となった。

大会テーマを『デザインとヒト:未来に向けて』とし、デザインが対象とする「ヒト」、そして「デザイン」と「ヒト」の関係をこれからの未来に対して、新たに考えていくこととした。大会のメインモチーフとして名古屋城の象徴である金鯱を利用した。



大会初日は國本桂史 名古屋市立大学、松岡由幸 日本デザイン学会会長の開会の辞とともにスタートした。

基調講演には郡健二郎氏(名古屋市立大学 理事長・学長)をお招き

し、『デザインとヒト：未来に向けて』というテーマでご講演いただいた。専門分野である医療における多様な研究を例としてデザインとヒト・ヘルスケアがこれからヒトの未来に向けてどのように関わりを持っていくかをお話しいただいた。



基調講演（郡 健二郎氏）

エクスカーションは、名古屋市昭和区桜山町にあった老舗洋菓子店「喫茶ボンボン」を経営していた先代が昭和30年代につくった昭和レトロな雰囲気の飲食街「ボンボンセンター」を中心に桜山界隈の散策を楽しんだ。



エクスカーション

第2日目、3日目は、276件の研究発表と4つのオーガナイズドセッションを実施した。口頭発表では16分野に加え、5つのテーマセッションが設けられ、170件の発表があった。様々な工夫により、活発な議論が行われた。

ポスター発表は106件となり、本部棟にて2日間にわたり実施された。会場内では熱心に討議する姿が見られた



ポスター発表



ポスター発表

オーガナイズドセッションは下記4テーマを実施した。

セッションA「先端医療からのヒトへのアプローチ」（オーガナイザー：國本桂史）では、リモート・サーボリック技術・VR技術・MR技術・手術支援ロボット技術のような「医工統合」としてのヒトと医療とデザインの新しい関係の取り組みを紹介し、そこから進化する精緻な医療・ヘルスケアの未来について議論がなされた。



オーガナイズドセッションA

セッションB「これからの社会人のデザインの学び」（オーガナイザー：山崎和彦）では、社会人のためのデザイン教育を推進している5名のパネリストと会場の参加者で「これからの社会人のデザインの学びに」についてディスカッションをしていただき、一つの方向性をまとめる議論がなされた。



オーガナイズドセッションB

セッションC「リビングラボを活用した高齢者の生活における課題解決の手法」（オーガナイザー：金井宏水）では、高齢者の生活における課題解決



オーガナイズドセッションC

のための手法を紹介する3つの教材（3種類の冊子）を提供しながら、その教材をベースにした勉強会がなされた。

セッションD「デザイン学とデザイン科学、その本質～『デザイン科学事典』編纂が意味するもの）では、本事典の編纂を通じて学んだデザイン学・デザイン科学の位置づけ、デザイン科学の枠組み、歴史的変遷、学術としての現有課題などについて解説し、今後デザイン学とデザイン科学がデザインの現場や社会に有益と実感できるために我々が何をなすべきかについて議論された。



オーガナイズドセッションD

懇親会は29日（土）、メルパルク名古屋にて行なわれ、約120名の多くの参加者を迎えた。会場では会員間の交流や情報交換の様子が見られ、親睦を深めることができた。



懇親会の様子

また、厚生会館（西）1階にて企業7社によるデザイン、ものづくりの事例を展示し、一般の方にもご覧いただける企業展示を実施した。

今大会には、学会員や学生の皆様に多数参加いただき、出展企業・自治体の皆様には開催に向け様々なかたちでご協力をいただき、松岡会長はじめ理事会、本部事務局の皆様にも多大なる御支援をいただき、大盛況で終えることができ心より御礼を申し上げ、開催報告といたします。



閉会式の様子

2019年度 秋季企画大会実行委員会 実行委員長 柚木 泰彦

2019年度日本デザイン学会秋季企画大会は、東北芸術工科大学を幹事校として、2019年11月8日(金)から11月10日(日)の日程で開催された。また、秋季企画大会と同時開催の形で日本デザイン学会第1支部大会を開催した。参加者は約150名であった。

令和元年を迎える本大会では未来をポジティブに切り拓くためのテーマとして「おいしいデザイン」を掲げた。「おいしい」という言葉は単に「味がよい」という意味に留まらず、「ここでしか味わえない魅力」「自分も幸せ、みんなも幸せ」など幅広い解釈もできるとともに人々の感覚の奥深いところに響く魅力や価値を表しているととらえ、ここ山形市を舞台に地域を元気にするデザインを見つめ、未来を語り合う機会を用意した。大学内での企画に加えて、山形市内を巡るフィールドワークを取り入れ、第1支部で開催する大会の特徴である「街に出る」コンセプトを踏襲するプログラム構成とした。また、大会を支える人員や予算に限りがあるため、手間や経費のかからない大会運営を心掛けた。主なプログラム概要を以下に記す。

□大会初日(11/8 | 金)

1) 開会式・表彰式

松岡由幸学会長からの開会挨拶の後、以下の通り、各賞表彰及び授賞式を行った。

- ・功労賞：清水忠男氏、青木史郎氏
- ・年間論文賞：森下あおい氏、中村顕輔氏「シニア・ファッションに向けたデザイン画の基準体形像」

- ・年間作品賞：林 秀紀氏、櫛 勝彦氏「教育効果のある木育玩具のデザイン開発」上野明也氏「トポロジー最適化を利用したキッチンカーの開発」

2) 基調講演

東北芸術工科大学中山ダイスケ学長より大会テーマと同じ演題での基調講演をいただいた。首都圏の大学とは全く異なった状況に大学をあげて奮闘する取り組みを紹介しながら「おいしいデザイン」を「新しい豊かさ」ととらえ、これからの時代に求められる芸術大学の役割、デザインの視点について熱く語られました。



基調講演（中山ダイスケ氏）

3) 出版記念講演

日本デザイン学会松岡由幸会長より「デザイン科学事典」(学会編/丸善出版)の概要を紹介いただくとともに、その編纂を通じて得られた、学会が取り組むべき今後の課題についても言及された。上記2つの講演は公開プログラムと位置づけ、広く市民、学生にも聴講いただいた。

□大会2日目(11/9 | 土)

4) ライトニングトーク

研究発表の枠にとらわれずに自由な視点で自らのデザインに関する考え方や実践について発表した。

本学会の会員だけでなく、地域で活躍されている工業技術センター職員、個人事業主の方も含め、計12件の報告が行われた。

大会テーマ「おいしいデザイン」に関連する発表も多く見られ、食とデザイ

ンの関係性、「おいしい」の解釈の幅の広さを感じさせる時間となった。また、東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科学生によるグラレコチーム(指導:稻村理紗氏 | まちづくりファシリテータ)が各発表の概要に対するグラフィックレコーディングを行い、その記録をもとに活発なリフレクションの時間を持った。進行:酒井 聰



ライトニングトークの様子



ライトニングトークのグラレコ



ライトニングトークのリフレクション

5) 学生プロポジション

デザイン学研究の普及を目的に「学生プロポジション」展覧会(ポスターや成果物の展示によるインタラクティブ発表)を実施した。全国18校から参加した54名の学生が前・後半に別れてポス



学生プロポジションの様子1

ター発表を行い、活発な質疑応答や意見交換を行った。厳正なる審査の結果、今年度は 54 件の発表のうち 17 件に優秀賞を授与した。担当: 藤田寿人、岡崎章、加藤健郎、細谷多聞



学生プロポジションの様子 2

6) 討論会「新しい論文のかたち」

デザイン実務そのものを研究対象とし、実質的な成果・知見・経験の言語表現の可能性を有する

デザイン学における「新しい論文のかたち」を目指した討論会を開催し、活発な議論が行われた。進行: 久保光徳

7) フィールドワーク「おいしい山形を探そう！」(会場: 山形市内「gura」)

社会人と学生混成の 6 チームを結成し、チーム毎にテーマを決めて山形市七日町周辺においてフィールドワークを行った。フィールドワークの始めに、東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授 志村直愛氏より、山形市の成り立ちについて事前レクチャーを受けた。また、東北芸術工科大学学生が各チームのローカルナビゲータとして街中を案内し、地域住民との有意義な交流を支援した。進行: 長田純一



フィールドワークのオリエンテーション

□大会 3 日目(11/10 | 日)

8) フィールドワーク成果発表会

チームそれぞれに、感性豊かな視点から思い思いに「おいしい」を映像表現でまとめ。魅力あるプレゼンテーションと示唆に富んだ意見交換の機会となつた。前日のレクチャーをされた志村直愛氏にもコメントーターとして参加

いたいた。進行: 長田純一



フィールドワーク成果発表

なお、企業展示は、株式会社 Too、株式会社エーアンドエーブックスの 2 件であった。

文末にはなりますが、ご参加いただいた皆様、開催にあたってご協力いただいた皆様に感謝の意を表すると共に、会員の皆様の益々のご発展を祈念し、開催報告といたします。

■大会実行委員長: 柚木泰彦、副実行委員長: 酒井 聰、実行委員: 藤田寿人、長田純一

■日本デザイン学会第 1 支部長 横溝賢、副支部長 原田 泰

■大会 website :

<https://www.tuad.ac.jp/jssd19f/>

委員: 青木弘行、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮崎清、宮内恵、森典彦、中山敏正

Design シンポジウム担当

担当理事 小林 昭世

本シンポジウムは、日本デザイン学会をはじめ、デザインや設計を上位概念とする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。2019 年度は、11/16-17 に当学会が幹事学会として、慶應義塾大学において、基調講演、研究発表、パネルディスカッションなどによる会議を開催した。なお、前日にデザイン関連学会シンポジウムを連携して開催した。

本学会からの委員は、松岡由幸、加藤健郎、小林昭世、永井由佳里、小野健太、永盛祐介

IASDR担当

担当理事 山中 敏正

IASDR2019 Manchester Metropolitan University 大会を開催する年であった。Lin-Lin Chen 会長のもとでの第 1 回の理事会を 5 月 14 日にオンラインで開催し、会長の方針、Manchester 大会の進捗状況、2018 年大会の開催結果や財務状況などを確認した。

会長から Design Declaration Pre-Summit について報告があり、IASDR としての対応を協議したが、積極的に関わるというよりも IASDR は研究活動の支援を主軸に動くという方針とした。さらに、2021 年大会の開催校を募るために Congress Invitation を検討したが、平行して香港理工大学(李健杓学部長)から開催できるという意向があることを報告し、2021 年度は香港理工大学で開催する方向を探ることとした。また、再構築した web の状況を確認し、必要な修正を指摘した。

9 月には、Manchester Metropolitan University において、IASDR2019 を開催した。Full Paper 167, Short Paper

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

昨年度の学会各賞選考結果を、ご報告いたします。

<年間論文賞>

・森下あおい、中村顕輔

シニア・ファッショニ向けたデザイン画の基準体形像 (vol. 65, no. 3, pp43-48, 2019)

<年間作品賞>

・林 秀樹、櫛勝彥

教育効果のある木育玩具のデザイン開発 (B類) (vol. 24, no. 1, pp24-29, 2019)

・上野明也

トポロジー最適化を利用したキッチンカーの開発 (B類) (vol. 24, no. 1, pp2-5, 2019) <功労賞>

以下の 2 名の先生方が受賞されました。

・清水忠男

・青木史郎

なお、昨年度の度学会各賞選考委員会の構成は、以下の通りです。

委員長: 庄子晃子

56, Workshop 11 が採択され, 270 名の参加者があった. 大会最終日に, 2021 年大会が香港理工大で 12 月 5-9 日の予定で大会テーマは “WITH DESIGN: REINVENTING DESIGN MODES” として開催されることがアナウンスされた. また, 大会が例年よりも早く, かつ会長選挙の段取りのための理事会が少なかつたため, 会長選挙を大会の理事会で行わず, 別途実施することが決定された. 会長は理事の中から選ばれることから, 理事の一覧を確定した. 選挙管理委員長は, 前会長の李健均氏が選ばれた.

CID: Tung-Jung Sung, Fong-Gong Wu
DRS: Peter Lloyd, Martyn Evans
DS: Claudia Eckert, Jean-Francois Boujut
JSSD: Toshimasa Yamanaka, Kenta Ono
KSDS: Byung-Keun Oh, Tek-Jin Nam
CO-OPT: Lin-Lin Chen, David Durling
11 月, 理事から会長候補の立候補を求め, David Durling, Toshimasa Yamanaka が立候補した. その後, 両者の Vision Statement ならびに研究業績を候補者が確認し, 非公開投票の結果, 12 月 17 日 Toshimasa Yamanaka が会長に選ばれた.

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

前担当理事 小林 昭世

日本デザイン学会を含む16学会よりなる藝術学関連学会連合は, シンポジウム開催を主な活動としている. 2019 年度は, 意匠学会をオーガナイザとして, 6 月 8 日(土), 国立国際美術館(大阪)にて, 第14回公開シンポジウム「アマチュアの領分」を開催した.

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事 蘆澤 雄亮

本学会では, 横幹連合が 2018 年度より「コトつくり至宝発掘事業」の一環として実施している「コトつくりコレクション」の運営に関して積極的に協力を行っている. 2018 年度は 5 件のコ

トつくりが選出された. 2019 年度は昨年度と同様にコトつくりコレクションの運営に対して積極的に協力を行った結果, 2 件のコトつくりが選出され, 総会での報告および横幹連合のホームページ内にて発表が行われた.

日本工学会

担当理事 小野 健太

日本工学会は, 約 100 学協会により構成される工学系学術団体である. 主に事務研究委員会を通じて, 会員学協会の話題提供や学協会運営などに関する最近の情報交換を行っている.

2019 年 12 月 4 日に東京大学 伊藤国際学術研究センターで開催された「令和元年度日本工学会 会長懇談会」に松岡会長にご参加頂き, 他学協会との連携および情報収集を行って頂いた.

また 2020 年 1 月 23 日に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで開催されたシンポジウム「日本工学会・学術著作権協会 共催シンポジウムオープナサイエンス時代の学会誌出版の在り方を模索する」に久保論文審査委員長にご出席頂き, 今後の論文集の在り方について情報収集を行って頂いた.

2019 年 11 月 8 日(金)～10 日(日)の日程で開催された. 本大会では学生と参加者が交流できるアカデミックプログラムとして次の 4 つ企画が用意された.

- (1) ライトニングトーク
 - (2) 学生プロポジション
 - (3) 討論会「新しい論文のかたち」
 - (4) フィールドワーク(以下、FW)
- このうち第 1 支部では FW の企画運営を担当した. 第 1 支部は地域に開かれた学会活動を形づくることを大切にしている. 本年度もこの支部コンセプトを継続し, 山形のまちを学生・社会人混成グループ(6 グループ／1 グループ@5～6 人)でぶらぶらと歩くことから, 食に限らない山形のおいしいを伝える映像記録の制作に取り組んだ. この企画は名古屋での春季研究発表大会における支部会ミーティングの協議内容をもとに, 東北芸術工科大学の運営チームの手によって計画された.



今回の FW の特徴は、個々人がまちを歩いて見て感じた情報を集め、「山形のおいしい」伝える物語として映像作品を再構成する「映像 KJ 法」という新たなデザインアプローチを実践した.

各グループは 11 月 9 日(土)の 15:00 ごろに活動拠点である地域交流レストラン Gura を出発し, まちに出た. おのの自分の行きたいところを FW し, スマートフォンやノートを使って五感に響く事象を記録した. 各グループ, 17:00 には再び活動拠点に戻り, 各自の記録情報の確認・集約から映像作品のコンセプトづくりをおこない, 17:30 には初日の活動を終了した. あとは各グループで映像制作を遠隔で共同して進め, 翌 11 月 10 日 10:00～11:20 に FW の成果発表会を実施した.

個々人の記録を持ち寄って遠隔で映像作品を編集するという KJ 法的な試みは, 多様なアプローチを生み出した. たとえば個々人で映像作品を完成させ,

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

日刊工業新聞主催の機械工業デザイン賞に日本デザイン学会賞が 2018 年度より創設された. 2019 年度は 3 月までに応募を受け付け, 7 月までに第 49 回機械工業デザイン賞審査を行った. 日本デザイン学会賞は「システムキーボックス KBS-100 シリーズ, グローリーAZ システム」が受賞した.

第 1 支部

支部長 横溝 賢

第 10 回第 1 支部研究発表大会は, 東北芸術工科大学が幹事校となり, 全国大会である秋季企画大会と合同で

それらをオムニバスとして編集し,映像とナレーションを組み合わせて発表したグループ.映像と模造紙(活動記録



の学びをまとめたもの)を組み合わせて発表したグループ.個々人の映像をインスタグラムのストーリーズにアップ.それらをキーノートスライドに並列して映像作品を完成させたグループなどである.



このように,FWに映像という記録手法を導入することで,山形のまちが多角的かつ奥行きをもって描き出され,FW参加者だけでなく参加できなかつた人も含めて,映像の世界観に没入して町の魅力を味わうことができた.それと同時に,映像、遠隔という制約により,情報を整理・編集するあらたな知恵や技が見られ,映像KJ法の可能性を示すことができたと考える.今回の経験を今後の支部大会にも役立てていきたい.

第1支部会ウェブ:

<https://www.tuad.ac.jp/jssd19f/>

大会実行委員長:柚木泰彦、副実行委員長:酒井聰、実行委員:藤田寿人、長田純一(東北芸術工科大学)

第1支部長 横溝賢、副支部長 原田泰

第2支部

支部長 平松 早苗

第2支部の会員に限定して作品を応募した2018年度「教育成果集」は,17学校26点の作品を掲載し、2019年度春季大会にて,大会参加者に配布した.



2018年度「教育成果集」より

2019年度の「教育成果集」は全支部対象の企画として実施し,第2支部で取りまとめを行っている.6月下旬に発行予定である.

第3支部

支部長 黄 ロビン

第3支部では今年度も会員交流と研究・デザイン活動の活性化を目標として,下記の事業を実施した.

1. 第3支部研究発表会概要集

今年度第15回目の第3支部研究発表会は金沢美術工芸大学で開催する計画を予定されたが,残念ながらCOVID-19(新型コロナウイルス)のために中止になった.

優秀発表賞の選出・表彰並びに懇親会などは取り消したが,事前に投稿された口頭発表16件,ポスター発表14件の研究は計画通りのまま印刷・出版された.

2. 第3支部報告集

支部会員日頃研究活動やデザイン活動の発表の場として一昨年度から発足した「第3支部報告集」では,名古屋学芸大学中西正明氏の「産学連携に備えた文系デザイン系学生への建築教育方法の研究」,及びに富山短期大学篠田隆行氏の「ソーシャルデザインの構築に向けた公共図書館の課題と展望」,計二篇の研究論文が投稿し,第3支部研究発表会概要集と一緒に出版された.

3. 日本デザイン学会奨励賞第3支部

学生の表彰制度について,第3支部所属各教育機関において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「奨励賞」を平成25年度からスタートした.学部・大学院各2名枠での会員推薦する形式によって,栃山女学園大学の大羽美宇・家崎紗依・小川紗英・渡辺実涼,金城学院大学の眞金

遙、名古屋学芸大学の道前知佳・山本悠真と院生の神谷啓士郎・樋口誠也,愛知産業大学の小野広喬,名古屋工業大学の山口洋貴・豊福拓歩,名古屋市立大学の山木美穂・川島芽衣と院生の茅野洋平,福井工業大学の吉村研人と院生の高橋紀子・松原かおり,数多くの学生が表彰された.

4. 第3支部ウェブサイトの運営

第3支部その他の活動について,すべての情報を支部ウェブサイトに公開している.詳しい情報については「<http://jssd3b.jp/>」を参照いただきたい

第4支部

支部長 久保 雅義

2019年度 JSSD 第四支部 秋期研究発表会に関して

■開催期間 2020年02月01日(土)9:30-18:00

■会場 京都女子大学 京都市東山区今熊野北日吉町35

■テーマ「変わるデザイン・変わらないデザイン」

参加者は,松岡学会長はじめ他支部の会員,第四支部の会員及び学生と多岐にわたり盛況だった.昨年(2019年)は,バウハウスが誕生してから百年が経った記念すべき年.バウハウスは1919年から1933年の僅か14年間の総合芸術教育研究活動であった.その功績は非常に大きく,モダンデザインの礎を築き,今もなお世界中の建築、デザインに多大な影響を及ぼしている.2019年度JSSD 第四支部本研究発表会では,令和の時代を迎えて大きく変化するデザイン環境を今一度俯瞰し,バウハウスの精神にも立ち返り,“変わるデザイン・変わらないデザイン”について考えてみることにした.多様な研究者のそれぞれの目線で次代を見据えて,変わる・変わらなければならぬデザインとは…,変わらない・ずっとまもり続けるデザインとは…について,積極的な論議が出来た.

■研究発表タイトルと発表者(所属略)

1. 開会あいさつ 変わるデザイン・変わらないデザイン-バウハウスから現代を俯瞰/久保実行委員長

2. 水害時におけるコミュニティ連携と

- 移動方法のデザインに関する考察/佐藤静香、前川正実
3. Web サイトにおける UX・UI の研究/野村夢乃、山岡俊樹
4. 抽象の今/水野忠陽
5. 女子大生の洋服コーディネートと色組み合わせが与える印象/櫻井海晴、山岡俊樹
6. メンタルモデル構築に関する 3 種類のモデルの有効性の検討/平城希望、山岡俊樹
7. <Object>Innovation Number.
Improvement Number 形式による革新と改善の集約の試み/新家敦
8. グループでアイデアを生み出すための創造的な活動過程の考察/富田咲希、前川正実
9. 百貨店の今後についての考察/境明悠、山岡俊樹
10. 画面の見やすさ実験と許容範囲測定法有効性/増山未袖、山岡俊樹
11. マニュアルにおけるヒューマンエラーの分類と操作説明動画に関する研究/益本佳歩、山岡俊樹
12. バイタルサインを利用した脱水症状予防アプリケーションの提案/辻村真太郎、益岡了
13. バイタルサインを用いた中小企業の事業者と労働者のためのストレス軽減アプリの提案/辻村真太郎、益岡了
14. デザイン活動(教育)は知的障害を持つ方々に寄り添えるのか./檜原靖
15. クラシックバレエにおける体幹伸展動作に対する意識調査
/権野めぐみ、野村照夫、来田宣幸
16. ユーザの要求事項に基づく石鹼のサービスデザイン提案/松井彩、山岡俊樹
17. 次世代のユーザに向けた日本茶関するデザイン提案/平坂月奈、山岡俊樹
18. 対象者の意識と無意識に効用する情報を制御統合するデザインメソッド/中川志信、董然
19. キャラクター・マーケティングにおけるキャラクター制作方法についての検討/片桐菜絵、山岡俊樹
20. 京都市内のバスシステムに関する調査報告とコンセプトの構築/山内優季、青沼紗央、岡本晶、貴傳名彩香、佐藤静香、田中郁乃、富弥志穂菜、広瀬紗也、前川正実

21. つながるバスシステムの提案/岡本晶、青沼紗央、貴傳名彩香、佐藤静香、田中郁乃、富弥志穂菜、山内優季、前川正実
22. メンタルモデルのバリエーションの検討/大森るな、中尾桃子、山岡俊樹
23. 物語を用いたマニュアルにおける感情とメンタルモデル構築に関する検討/花谷美里、山岡俊樹
- 基調講演 平田智彦氏 HYPHENATE 代表取締役 (元 ziba tokyo 代表取締役) 16:30-18:00
- これまでの平田氏のデザイン活動について、バウハウスに影響を受けデザイン活動を開始した頃から今日の HYPHENATE 立ち上げまでの実際を話して頂き、変わるデザイン・変わらないデザインを具体的に提示された。HYPHENATE では、「美しい体験を創る」をミッションに、プロダクト・UI・サービスデザイン、リサーチとビジネス創出を対象に ziba から離脱し新しいスタートを切ったと説明があった。また、講演後活発な質疑があった。



研究発表の様子



平田氏の基調講演

- 交流会 18:10-19:30 平田氏、松岡会長も含め多くの参加者があり、活発に交流を行った。文責 久保雅義

第 5 支部

支部長 田村 良一

令和元年度は、2006（平成 18）年度から実施してきた「研究発表会」と、

2008（平成 20）年度から実施してきた「学生デザイン展」を統合して、「第 5 支部発表会」を下記のとおり開催したので報告する。

令和元年度 第 5 支部発表会

会場：西日本工業大学小倉キャンパス

日時：令和元年 11 月 23 日（土・祝日）

9:45～19:00

本発表会は、西日本工業大学・小倉キャンパスを初めての会場として、11 月 23 日（土・祝日）の終日、実施した。

口頭発表形式 43 件、ポスター発表形式 2 件の計 45 件の研究発表、13 件のライトニングトークの合計 58 件の発表があった。第 5 支部の会員、学部生や大学院生のみならず、遠くは第 1 支部の会員、学生の参加、発表があり、多様な研究テーマのもと、活発な発表会を開催することができた。なお、ライトニングトークは懇親会と同一の会場を使用し、懇親会と連続するかたちで実施した。リラックスした雰囲気のなかで発表、参加者相互に研究情報の交換や親睦を深めることができた。また、発表者や実行委員の負担軽減、今後の多様なコンテンツの掲載に向けて、これまでの PDF 原稿による概要集ではなく、MediaWiki を用いた Web 上での編集を試みた。二つの試みともに好評を博したことから、今年度も同様のプログラム構成やシステム活用を予定している。



口頭発表の様子



ライトニングトークの様子

最後に、発表および参加いただいた皆様、運営に携わっていただいた皆様に、改めて厚く御礼を申し上げる。

令和元年度 第5支部発表会

<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th/>

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

2019年度末の会員数は、正会員1,445名、学生会員数232名、名誉会員71名、賛助会員数30件、年間購読会員46件となっている。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,677名で、昨年の同時期(1,792名)と比較して115名の減少となった。

昨年度は、年度末に社会的に深刻化した新型コロナウィルスの問題で事務局の対応や理事会活動など、本部事務局の業務が大きな影響を受けた。運営委員会や理事会もメール審議またはオンライン会議で実施することとなった。春季大会の中止が決定したことで、総会をどのように開催するかが課題となり、その実施方法の検討を進めてきた。今後もこの問題に配慮しつつ学会活動が停滞しないように、事務局としての対応を検討する必要があり、その対策の一つとして、学会としてWeb会議システムの導入を計画し、準備を進めている。

また、従来から課題となっていた本部事務局業務の効率化のため、会員管理システムの導入を検討してきた。財務委員会とも協議し、システム提供会社に説明会の開催を依頼して具体的な機能などシステムの概要を確認した。基本的には本年度中に導入したいと考えているが、その導入には十分な準備作業と習熟が必要であることから、導入手順などについて、現在も継続的に検討を進めている。

今回の新型コロナウィルスの問題で、本部事務局職員の安全を考慮して交代制勤務にするなどの対応を行ったが、事務局作業への影響は最小限に留められたと考えている。今後も柔軟な対応で会員サービスの維持向上に努めていくたい。

教育部会

主査 金子 武志

2019年度の教育部会では下記の、デザイン教育研究会を企画し開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止となった。

当部会の研究会はデザイン学会の所属に関係なく、誰でも自由に参加が可能な場として、教育現場に携わる先生方をはじめ、デザイン・教育に関心のあるクリエーター、現役学生、一般の方々に向け、誰にも分かり易く親しみあるテーマ内容を準備し企画している。今回の企画はモノとコトの関係性に興味を持つ関係者に大いに刺激となる内容を目指し人選と準備を進めた。研究会では発表後に登壇者と参加者によるディスカッションも予定していた。残念ながら開催は中止せざるを得ない状況となったが、次年度に再び同テーマによる研究会の再調整を予定している。

<活動概要>デザイン教育研究会の企画

2020年3月18日(水) 18:00~20:00

会 場：日本デザイン福祉専門学校
学生ホール (東京都渋谷区千駄ヶ谷5-7-3, 1階)

発表者：中川 英之 (gallery 坂 オーナー)

テーマ：『蒐集についての一考察～モノとの縁、ヒトとの縁～』

発表概要：なぜ、人は蒐集するのか。蒐集癖などとも揶揄され、蒐集に興味がない人には、まるで理解できない不可思議な行為。蒐集する対象物は、それこそ多種無限に及ぶ。モノがもつ魅力、その魅力の捉え方も人それぞれだが、モノを蒐集するということは、謂わば、それ自体が一つのデザインであり、一つの創作だとも思う。様々な素材を扱う表現者、手仕事の人々と出会う生業を私はしているが、モノを蒐めることは、そのモノを生み出したヒトに興味をもつことでもある。なぜその素材を扱うことになったのか、その作風に至る道程はどのようなものなのか、いま挑みたい表現は何か、敢えて異素材への探求心はないか、など興味は尽きない。そのモノが古物の場合には、そのモノの歴史や民俗など、その背景へ興味が至る。

どんな時代に、何処で、どのような者がこさえたのか、どのように伝世してきたのか、否、できれば伝世などせず、蔵から出てきて真っ先に目垢のつかないそれを手にしたい、そんな風に、そのモノを巡る夢想妄想は果てなく繰り広げられる。そんなモノたちが帶同してくれる世界は、人生に深みを与え、より豊かにしてくれる。そんなモノ蒐めについて思い巡らす様々や、そこから派生する取り留めもない話に、今回は少々お付き合い頂きたい。(研究会案内より抜粋)

発表者紹介：中川 英之 (gallery 坂 オーナー) 日本大学文学研究科史学専攻修士課程修了 日本中世史を鈴木國弘氏に、日本民俗学を平野榮次氏に師事、村落や島嶼への民俗調査や、武藏村山市史編纂専門調査員としての現地踏査研究から、郷土資料や古道、民間信仰遺物の価値・多様性への探究を深める。明光義塾狭山ヶ丘教室長を6年間務めた後、2005年東京神楽坂にgallery坂開廊。工芸、平面、造形など多岐に亘る作家展を開催する展示スペースと、30人余の魅力溢れる作家作品を展観する常設スペースを併設し、素材・ジャンルを問わず様々な輝きを放つ作家たちと、その挑戦する表現や手仕事の形姿を紹介し続けている。

07~19年神楽坂まち飛びフェスタ参画、09~12年カグラザカヨコロジー参画、11年木旋美術俱楽部第1回展示会講評、18年十人十色神楽坂ガラス散歩参画、18年日本デザイン福祉専門学校クラフトデザイン学科特別セミナー講師

環境デザイン部会

主査 清水 泰博

2019年度は、近年の共通テーマである「サステイナブル環境デザイン」を継続したメインテーマとし、具体的には現代日本の切実なテーマである「人口減少時代の環境デザイン」のあり方を考えることとした。これは時代が新たなフェーズに入ったことを感じさせている現代において、1960年代半ばから70年代にかけて日本で隆盛したデザイン・サーブェイを改めてこの時期に実施してみようという趣旨である。

当初予定の本年3月末の原稿締め切りはコロナウィルス蔓延にまつわる各種事情によって5月末に延長し、現在も引き続き部会員による執筆活動が行われている。また春季大会時に部会員による座談会を行う予定であったが、大会中止となったことを受けて同時期でのオンライン座談会等を模索している。最終成果としては秋に特集号としてまとめる予定である。

部会の会報「ED Place」は、5月に85号「卒業制作特集」、11月に86号「部会員の活動」、2月に87号「特集・北陸地区からの報告」として北陸の現状についての部会員からの報告をまとめ、この3冊をPDF配信により発行した。

上記の活動とともに、本部会の位置づけや活動、運営、体制の在り方などを検討しながら、部会の若返りを進めるべく、規約の作成を進めた。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●春季大会テーマセッション

第66回春季大会（名古屋市立大学・2019年6月30日）において、テーマセッション－家具・木工部会：「伝統的資源と現在学」を開催した（口頭発表4本）。

●総会

第66回春季大会の家具・木工部会テーマセッション開始前に総会を開催した。主な決議事項は以下のとおりである。

(1)家具・木工部会の主査として新井竜治（芝浦工大）の再任が承認された。

(2)家具・木工部会による『デザイン学研究特集号』の内容（執筆者・論文タイトル）が承認された。

(3)総会席上、5名の新入部会員の受け入れが承認された。総会終了後、持ち回り審議で3名の新入部会員の受け入れが承認された。

●特集号

家具・木工部会の企画により、『デザイン学研究特集号』27巻1号（通巻101号）「家具のデザインと技術：モノのデザインのこれまでとこれから」

（2019年10月）を発行した。

主査 松岡 由幸

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

【活動報告】2019年度デザイン史部会では以下の発表形式の研究会を開催した。

【活動方針】本年度も同様の研究会を開催予定である。

■第41回研究会

開催日：2019年11月30日

テーマ：「戦前期日本のポスターの歩み－函館市中央図書館所蔵作品を中心として－」

発表者：田島奈都子氏（青梅市立美術館）

場 所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

概 要：函館市中央図書館には2,500点を超える戦前期の日本製ポスターが、良好な状態で所蔵されており、発表者は断続的に約20年間、その閲覧調査を実施してきた。2019年に同コレクションを主体とした『明治・大正・昭和初期 日本ポスター史大図鑑』を図書刊行会より刊行したことから、本発表はそれにちなんで、同書に紹介した作品を中心に、改めて戦前期日本のポスター史について概観するものである。

■第42回研究会

開催日：2020年3月14日

テーマ：「映画にみる家電製品－高度経済成長期に制作された邦画より－」

発表者：林原泰子氏（大妻女子大学）

場 所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

概 要：第二次世界大戦後の高度経済成長期に、技術革新や所得向上により急速に普及した各種家電製品。なかでも電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビは「三種の神器」と呼ばれ、あこがれの的とされていた。現代生活に欠かせないこれら家電製品は、当時、どのように日本人の生活に迎え入れられたのか。戦後の邦画における生活場面から、当時の人々と家電製品との関係について、あらためて考察してみたい。

デザイン理論・方法論部会

2019年度においては、名古屋市立大学で行われた春季大会にて、テーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」をタイムアシスティン研究部会と合同で開催し、5件の研究発表が行われた。また、同セッションにおいて梅田靖先生（東京大学）によるキーノート講演が行われ、新たな視点や視座を得ることができた。さらに、オーガナイズドセッションにおいては「デザイン学とデザイン科学、その本質－『デザイン科学事典』編纂が意味するもの」を開催し、2019年10月に出版された『デザイン科学事典』（丸善出版）の編纂を通じて得られたデザイン学・デザイン科学に関する知見について議論がなされた。

2019年4月12日（金）には、慶應義塾大学において、当部会共催の「デザイン塾：デザイン科学は『令和』時代のエスキースを描くか？」が開催された。研究者、教育者、デザイナー、企業の開発者、学生を含む70名以上の方々にご参加いただき、活発な議論が行われた。

ファッションデザイン部会

主査 神野 由紀

2019年度ファッションデザイン部会の研究例会は、2020年3月13日（金）開催予定であったが、新型コロナ感染拡大時期と重なり、開催を中止した。発表予定であった「ハンドメイド趣味をめぐる歴史と現在」（発表者：神野由紀、中川麻子）については、2020年度に延期の予定である。2020年度の開催計画については、外出の自粛解除と安全な状況が確認された後、具体的な日程を決める。

子どものためのデザイン部会

主査 工藤 芳彰

2019年6月の第66回春季研究発表大会では、7年連続となるテーマセッション「子どものためのデザイン」を開催、独自の視点から取り組まれた6

件の発表は、質疑応答を含めて聴衆の知識を深めた。夏には KDSS2019（感性デザインサマーセミナー2019）と共同開催の部会ワークショップを実施（8/30-9/1、伊香保）、8大学から60名弱の参加者を集め、成功裡に終了した。2020年5月には4冊目となる部会主宰の特集号「なぜ、子どものためのデザインに取り組むのか」を発行した。以上のとおり、充実した部会活動を重ねることができた。関係者の方々に御礼申し上げる。

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

2019年度の主な活動は、1) 関連団体(人間中心設計機構、Xデザインフォーラム等)とのイベントの開催、2) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信と共有(Facebook プロダクトデザイン研究部会)などの活動である。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 寺内 文雄

本研究部会は、大量消費や大量廃棄による地球温暖化、エネルギー問題の深刻化、および精神的な豊かさの欠乏などの諸問題に対応可能なデザインコンセプトの1つであるタイムアクシスデザインに注目し、これに基づくデザイン理論、方法論、および方法の構築を目的としている。

2019年度においては、6月に名古屋市立大学で行われた春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」をデザイン理論・方法論研究部会と合同で開催し、5件の研究発表が行われた。同セッションにおいて梅田靖先生（東京大学）によるキーノート講演が行われ、タイムアクシスデザインの今後の展望について議論を行った。

また、当部会共催の「デザイン塾：タイムアクシスデザイン～新たなモノづくり×モノづかいへの誘い」を含む3件のデザイン塾を開催した。本年度においては、ご参加いただいた研究者、教育者、デザイナー、企業の開発者、

学生は延べ100名以上となり、活発な議論を行うことができた。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

バイオ・メディカルデザイン研究部会は、医療・ヘルスケア分野のデザインはそれが医療機器デザインや、人工関節などの人体再建の構造デザインであると問わず、医学ヘルスケア分野との積極的な協力によって、各方面において科学的な手法と技術を取り入れ、その現象的解明を進展させると同時に、より有効な手段と有意義なデザイン手法の提供に努力が向けられる必要がある。

医学・ヘルスケアにデザインの手法をいかに取り入れるかという問題は、それが医学とデザインとの境界領域にあるために、両者の緊密な連繋が必要なのは勿論であるが、デザイン側においても、医学と工学の協力を得なければ充分な成果を挙げることはできない。また生体工学的概念を具体的に進展させるためにデザインの手法を必要とするとして、2008年6月に設立された。

2019年度においては、6月28~30日には名古屋市立大学桜山キャンパスで行われた第66回日本デザイン学会春季研究発表大会にて、大会の基調計画を行ない特別講演（名古屋市立大学郡健二郎学長）、オーガナイズド・セッションA「先端医療からのヒトへのアプローチ」を、橋爪誠先生（九州大学・医学部）、宇山一朗先生（藤田医科大学・医学部）岡田淳志先生（名古屋市立大学・医学部）パネリストに迎え開催した。

また、前年に開設された公立法人名古屋市立大学大学院医学研究科において「大学における医療とデザインの融合講座」としての「臨床医療デザイン学分野」でのスピーチを行なった。さらに、8月2日には札幌コンベンションセンターで開催された第69回日本病院学会において「デザインが創る

HOSPITAL 5.0 次世代医療産業構築への蹊-the way which builds the future」についての講演を行なった。8月24~25日には名古屋市立大学桜山キャンパスにて「ダイバーシティと未来：ヘルスケア・メディカル・デザイン・人・幸福」をテーマに開催された日本ヘルスケア・ダイバーシティ学会にて城卓志先生（蒲郡市民病院CEO：前名古屋市立大学病院長）宇山一朗（藤田医科大学教授）山海嘉之先生（筑波大学教授）、間瀬光人（名古屋市立大学教授）鄭道成（韓国・国民大학교教授）を迎えて5件の特別講演を開催した。9月19~23日には中国・上海の国立上海交通大学で開催された2019年オリエンタルデザイン国際シンポジウムにて「医療デザイン：HOSPITAL」について國本桂史がセッションを行った。



日本ダイバーシティ学会特別講演

情報デザイン部会

主査 横溝 賢

2019年度の春季研究発表大会（名古屋）の情報デザイン研究部会セッションにて主査の原田泰先生（公立はこだて未来大学）より、主査交代の提案があり、横溝（主査（新規）、札幌市立大学）と瀧智恵美氏（副査（継続）、ミニクリエイティブ）への引き継ぎが了承された。引き継ぎ後は、情報デザイン研究部会活動の方向性づくりに着手した。その基本的な考えは次のようなものである。情報デザインの問題が社会を形づくるデザインにまでできていること。それを踏まえて、デザイン実践者のナラティブをもちより、部会メンバーや多分野の専門家と語り合う場を作ること。語りの場では実践者のデザインの知の在りどころを探り、研究の理論的

枠組みを形づくることとする。こうした機会は3人集まれば開催可能なものとし、その集まりを〈準備部会〉と位置づける。今後は準備部会活動から多様な社会実践のデザイン学研究を創出し、デザイン学だけでなく認知科学や人類学、社会学など他分野の学会にてデザイン学研究を積極的に発表していく。

以上のような方向性を部会メンバーに呈示し、準備部会活動をはじめた。現在、部会内で起こりつつある準備部会は「コンヴィヴィアリティのための道具勉強会」「デザインナラティブ研究会」「共創のデザイン知を考える研究会」などである。このうち、コンヴィヴィアリティのための道具勉強会は2019年12月、2020年1月、2月と3回実施した。この活動は自立した共生社会を形づくるための、ソーシャルイシューだけでなく医療や学校制度の問題とも結びついており今後も継続して実施する予定である。

また、デザインの問題が人びと（非専門家）との共同・共創が中心になってきていることを鑑み、社会実践という、人びととの個別具体的なデザイン活動を研究にするためのビジョンづくりとして、特集号「社会実践のデザイン学」（日本デザイン学会誌「デザイン学」研究特集号第27巻2号 通巻102号）を企画編集し、2020年4月に刊行した。

第2号議案

2019年度 収支決算報告

I 貸借対照表（収益事業）

(令和2年3月31日現在)

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	0	流動負債	0
固定資産	0	固定負債	2,345,707
有形固定資産		法人会計	2,345,707
無形固定資産		負債合計	2,345,707
投資その他の資産		(純資産の部)	
		一般正味財産	-2,345,707
		純資産合計	-2,345,707
資産合計	0	負債・純資産合計	0

II 損益計算書（収益事業）

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
【経常損益の部】	
(経常収益)	
事業収益	1,688,713
企業展示ブース賃貸料	350,000
論文集売上 年間購読会員	1,242,500
電子図書閲覧収入	96,213
	1,688,713
(経常費用)	
事業費用	1,983,656
論文審査料	675,416
論文PDF作成料	1,308,240
管理費用 (収入按分)	713,995
	2,697,651
経常利益	-1,008,938

III 貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,127,120	流動負債	70,000
現金及び預金	18,127,120	未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	70,000
無形固定資産		(純資産の部)	
投資その他の資産		一般正味財産	18,057,120
		純資産合計	18,057,120
資産合計	18,127,120	負債・純資産合計	18,127,120

IV 損益計算書

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
【経常損益の部】	
(経常収益)	
事業収益	23,034,401
正会員年会費	15,474,500
新入会員	1,457,450
賛助会員	739,568
年間購読会員	1,242,500
学生会員	1,098,500
学会誌掲載負担金	2,751,230
作品応募料	90,000
雑収入	180,653
財務収益	161
受取利息	161
	23,034,562
(経常費用)	
事業費用	10,817,902
オンデマンド印刷	1,138,922
選挙経費	206,053
論文審査委員会	675,416
作品審査委員会	166,422
論文集	1,308,240
特集号	5,586,372
作品集	430,100
概要集	1,198,800

大会補助費	-2,558,475	
オーガナイズドセッション	233,877	
キーノート講演費用	107,502	
国際デザイン会議	64,905	
研究部会活動補助費	237,406	
支部活動補助費	477,669	
広報費	9,051	
学術会関連	193,541	
出版物通信費	722,308	
概要集編集委員会	504,064	
特集号編集委員会	284,981	
総会準備経費	11,888	
学会各賞選考委員会	84,222	
Designシンポジウム補助費	-485,694	
封筒費	190,332	
予備費	30,000	
管理費用	9,739,107	
給料手当	4,570,000	
理事会運営費	576,872	
通信費	722,953	
消耗品費	117,526	
水道光熱費	146,214	
支払手数料	140,518	
賃借料	1,800,000	
保険料	86,722	
租税公課	600	
経営業務コンサルタント料	162,000	
通勤費	199,820	
印刷費	189,099	
運営経費	223,788	
アルバイト雇用費	650,700	
雑費	152,295	20,557,009
経常利益		2,477,553
(経常外損益の部)		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		2,477,553
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期純利益		2,407,553

計算書類の注記表

- ・消費税の会計処理は、税込方式によっている。
- ・関連当事者との取引については、開示すべき取引はない。
- ・重要な後発事項はない。

附属明細書

- 重要な固定資産の明細・・・該当なし
- 引当金の明細・・・該当なし
- その他の重要事項・・・該当なし

V 決算書

[一般会計]

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
2018年度繰越金	15,719,567	15,719,567	0	15,719,567
1 会費(現)	16,629,600	15,884,000	-745,600	正会員@13,000×1,191名 学生会員@6,500×63名 409,500
2 会費(新)	2,090,000	2,146,450	56,450	正会員@18,000×81名(一般 入会金: 5,000、年会費: 13,000) 学生会員@6,500×106名(学生 入会金: 免除、年会費: 6,500) 689,000
3 賛助会員費(現)	920,000	739,568	-180,432	24件
4 賛助会員費(新)	30,000	0	-30,000	0件
5 年間購読会員費(現)	1,200,000	1,242,500	42,500 @ 25,000×56件	1,242,500
6 年間購読会員費(新)	25,000	0	-25,000	0件
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件
8 学会誌掲載別刷料・負担金	2,675,000	2,841,230	166,230	論文掲載料 作品集審査費 作品集掲載料 2018年度作品集掲載料 1,871,230 90,000 520,000 360,000
9 春季研究発表大会	5,000,000	6,313,506	1,313,506	参加費 研究発表費 懇親会 企業展示 学会大会補助金(2018度支出) 預金利息 3,490,500 1,148,000 825,000 350,000 500,000 6
10 秋季企画大会	500,000	502,500	2,500	参加費 補助金 レセプション参加費 155,000 100,000 247,500
11 雜収入	750,000	180,814	-569,186	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 寄付 78,500 96,374 5,940 0
計	45,589,167	45,570,135	-19,032	45,570,135

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局&理事会関係	11,139,280	10,015,180	-1,124,120	
1 本部事務局経費	9,939,280	9,232,235	-707,045	消耗品代 運営経費(春季大会用張り紙含む) 職員給与(@180,000×12,@230,000×2) +(@150,000×12,@75,000×2) 通勤費(@6,000×12) +(@13,820×4,@6,000×12) 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引落経費 賞賛料(@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費(宛名整理、書類作成、発送、名簿管理補助等) 経営業務コンサルタント料 租税公課 労災保険料 117,526 233,788 4,570,000 199,820 0 722,953 189,099 152,295 140,518 1,600,000 146,214 650,700 162,000 70,600 86,722
2 理事会運営費	800,000	576,872	-223,128	会場借用料、理事会運営経費等
3 選挙経費	400,000	206,053	-193,947	選挙に関する費用 576,872 206,053
学会誌審査・編集関係	1,465,000	1,126,819	-338,181	
4 論文審査委員会経費	700,000	675,416	-24,584	675,416
5 作品審査委員会経費	275,000	166,422	-108,578	作品集編集費 166,422
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000	0	-100,000	0
7 特集号編集委員会経費	390,000	284,981	-105,019	第26巻1号編集委員会 第26巻2号編集委員会 第27巻1号編集委員会 第27巻2号編集委員会 97,756 -72,775 130,000 130,000
学会誌印刷・通信関係	17,491,000	10,575,074	-6,915,926	
8 印刷費	15,991,000	9,852,766	-6,138,234	論文集・前年度分 論文集 特集号・前年度分 特集号 作品集 論文集・作品集オプション印刷費 概要集USB(750冊印刷) 封筒代 149,040 1,159,200 3,378,672 2,207,700 430,100 1,138,922 1,198,800 190,332 722,308
9 出版物通信費	1,500,000	722,308	-777,692	郵送料・事務代行料金 722,308

大会関係		5,860,000	4,778,295	-1,081,705
10	2019年 春季研究発表大会	3,000,000	3,256,827	256,827
				プログラム・カンファレンスキット 講演料等 アルバイト雇用費 会場費・会場設営費 懇親会費 エクスカーション 通信費 会議費 事務費 消耗品費 雑費
				1,755,241 28,420 535,850 31,392 630,740 21,988 574 28,720 163,929 55,829 4,144
11	2019年 秋季企画大会	1,000,000	1,000,704	704
				Webサイト制作 講演料等 アルバイト雇用費 送迎バス チラシ作成費 懇親会費 会議費 消耗品費 通信費 雑費
				200,864 16,706 140,800 143,000 162,864 255,641 9,895 66,624 4,310 0
12	2020年度春季研究発表大会	500,000	0	-500,000
13	春季大会概要集編集(準備金)	450,000	504,064	54,064
14	春季オーガナイズセッション費用	320,000	233,877	-86,123
15	春季キーノート講演費用	0	107,502	107,502
16	学会セミナー費用	100,000	0	-100,000
17	総会準備経費	30,000	11,888	-18,112
18	学会各賞選考委員会経費	100,000	84,222	-15,778
19	国際デザイン会議	60,000	64,905	4,905
20	Designシンポジウム補助費	300,000	-485,694	-785,694
委員会関係		1,400,000	715,075	-684,925
21	委員会経費	200,000	0	-200,000
22	研究部会共通経費	400,000	237,406	-162,594
23	支部活動補助費	750,000	477,669	-272,331
24	市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000
		250,000	9,051	-240,949
25	広報費	250,000	9,051	-240,949
				大会ポスター、ちらし通信費 ホームページリニューアル ホームページ管理・運営
				0 0 9,051
その他		7,983,887	18,350,661	10,366,774
26	学協会関連	305,000	193,541	-111,459
				學術会議活動費(@30,000+@30,000) 藝術学関連学会連合シンポジウム分担金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 日刊工業新聞社 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 デザイン関連学会活動費
				0 15,000 0 28,541 50,000 30,000 70,000 0 0
27	予備費	7,678,887	30,000	-7,648,887
				慶弔費 その他
28	繰越金	0	18,127,120	18,127,120
		計	45,569,167	45,570,135
				-19,032
				18,127,120
				45,570,135

[特別会計]

	2018年度	2019年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,363,408	20,364,085	677	利息0: 基金に繰り入れ

2019年度収支決算につき、上記のとおりで報告いたします。

2020年5月14日 一般社団法人 日本デザイン学会



第3号議案

2020-2021年度 役員選任

2020・2021年度 日本デザイン学会 役員候補者選挙 結果

会長候補者	小林 昭世	
-------	-------	--

副会長候補者	佐藤 弘喜	
--------	-------	--

	支部長候補者	副支部長候補者
地区理事 候補者	第1地区 横溝 賢	柚木 泰彦
	第2地区 平松 早苗	橋田 規子
	第3地区 滝本 成人	池田 岳史
	第4地区 益岡 了	赤井 愛
	第5地区 田村 良一	井上 貢一

全国理事候補者	蘆澤 雄亮	曾我部 春香
	大島 直樹	寺内 文雄
	岡本 誠	永盛 祐介
	小野 健太	生田目 美紀
	柿山 浩一郎	伏見 清香
	上綱 久美子	松岡 由幸
	國本 桂史	山内 貴博
	久保 光徳	山中 敏正
	小山 慎一	山本 早里
	佐々木 美貴	JAIME TARCISIO ALVAREZ RAMIREZ

特設理事候補者	井関 大介	杉下 哲
	加藤 健郎	村上 存
	工藤 芳彰	柳澤 秀吉
	佐藤 浩一郎	

監事候補者	国澤 好衛	蓮見 孝
-------	-------	------

2020 年度活動方針

会長：小林昭世

2016 年度から 2019 年度の日本デザイン学会の活動について、松岡会長は、i) 体制基盤の構築 ii) 学術基盤の構築 iii) 活性化策の推進を掲げ、特に 2019 年度は、(1) 対象領域の拡大 (2) 研究・教育基盤の向上 (3) 他団体との連携強化、に重点的に取り組んだ。この活動は本学会に成果をもたらしたと言える。この方針を引き継ぎ、取り組むことは 2020 年の活動方針の基本であると考える。

しかしながら、昨年末から私たちの活動はコロナ禍によって一変した。日常の研究、教育、デザインの活動は、コロナ禍の中で不安と困難を感じ、また変革を余儀なくされている。もちろん、この変革を積極的に捉えることはできる。コロナに対する予防的な社会活動の自粛をドイツのメルケル首相が民主主義の危機と表現したように、私たちもまた学術研究の危機と困難に直面している。研究者が発表のために、また担当校を始め関係者が着々と準備してきた春季大会が中止されたことはその中でも最大の危機である。学会前提の運営として研究発表という学会の根幹に関わる活動が中止となつたばかりでなく、研究仲間と話をし、それを聞き、議論や意見を交換し、交流をするという研究者の日常的、個人的な活動の愉しみも制限されることになった。一方で、遠隔会議やテレワークがその一部を補償し、あるいはさらに私たちのコミュニケーションの習慣を変えていくという明るい予感が生じているのも事実である。

このような状況の中で、本学会は、研究を発表し、その成果を共有していくという活動を遅滞なく果たしていくことで、活動の基盤を確かなものにしていくことが重要だと考える。そのために本学会を支える委員会組織については 2019 年度までの組織を可能な限り継承して、デザイン学研究和文誌、同英文ジャーナル、作品集、特集号の刊行、秋季大会と来年度春季大会準備、支部や研究部会の活動、など本学会の基盤となる活動に注力し、着実に遂行していくと考える。

2020 年度 委員会等一覧

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	蘆澤雄亮 小野 健太 加藤健郎 * 佐藤浩一郎 *	

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	久保光徳 (和文誌担当)	伏見清香 加藤健郎 * 佐藤浩一郎 *	
	村上存 * (英文誌担当)	小山慎一 ハイメ・アルバレス 柳澤秀吉 *	
作品審査委員会	杉下哲 *	岡本誠 上綱久美子 佐々木美貴 山内貴博	
学会誌編集・出版委員会	寺内文雄	山本早里 井関大介 * 曾我部春香	
研究推進委員会	小野 健太	蘆澤雄亮 柿山浩一郎	
企画委員会・総合企画	生田目美紀	工藤芳彰 *	
企画委員会・支部企画	平松早苗	横溝賢 滝本成人 益岡了 田村良一	
教育・資格委員会	松岡由幸	加藤健郎 * 佐藤浩一郎 * 井関大介 *	
広報委員会	大島直樹	永盛祐介	
財務委員会	生田目美紀	小野健太	
市販図書企画・編集委員会	國本桂史		
春季研究発表大会概要集編集委員会	柿山浩一郎	永盛祐介	

支部	支部長	副支部長	幹事
第 1 支部(北海道・東北地域)	横溝賢	柚木泰彦	福田大年 安井重哉 堀江政広 酒井聰 石井宏一 菅原香織 田中隆充

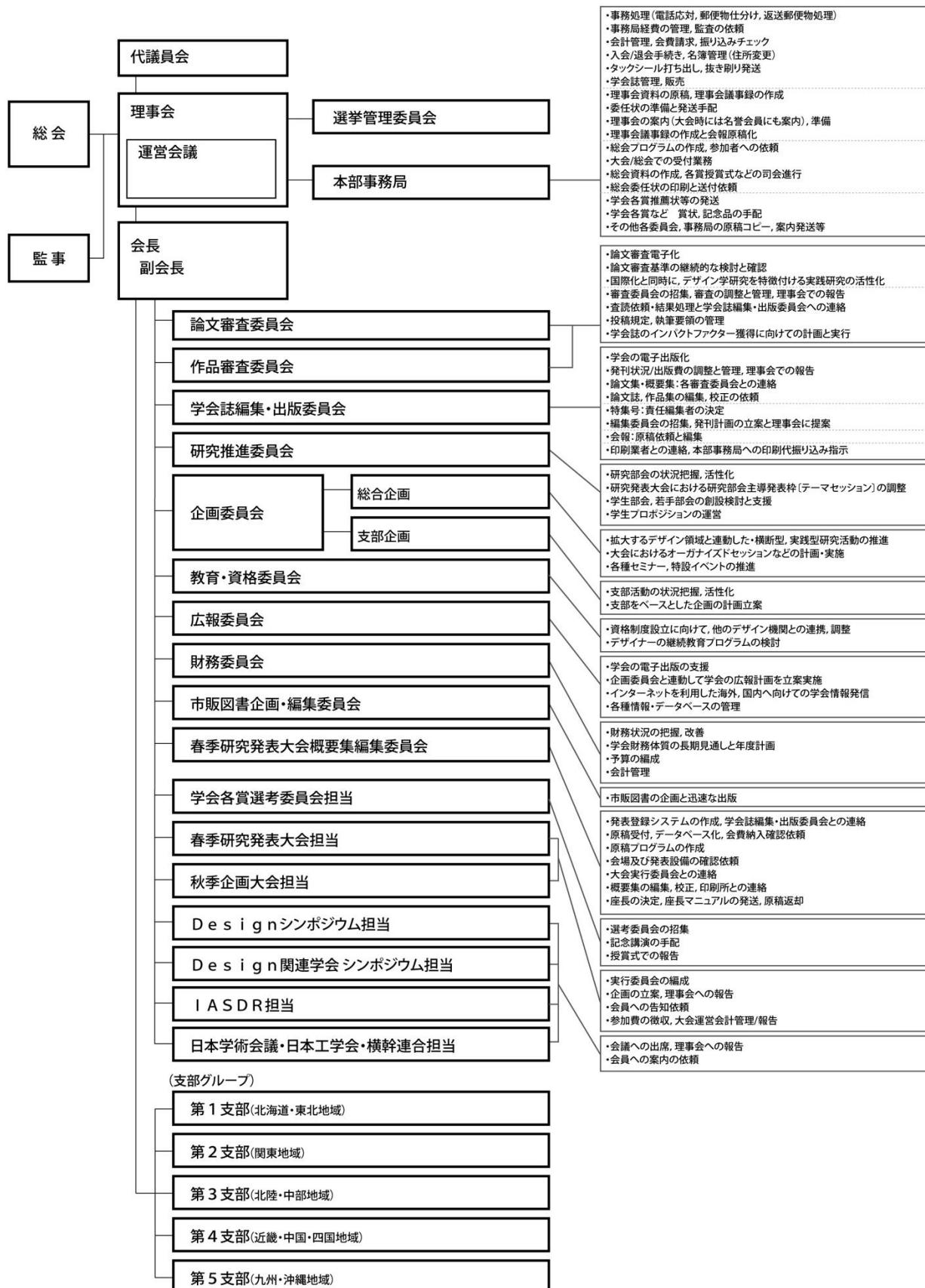
			中島郁子 両角清隆 岡本誠 原田泰
第 2 支部(関東地域)	平松早苗	橋田規子	
第 3 支部(北陸・中部地域)	滝本成人	池田岳史	
第 4 支部(近畿・中国・四国地域)	益岡了	赤井愛	
第 5 支部(九州・沖縄地域)	田村良一	井上貢一	

学会各賞選考委員会	委員長	委員	
<協力委員会>	庄子晃子	青木弘行	杉山和雄
久保光徳（論文審査委員会和文誌）		原田昭	松岡由幸
村上存*（論文審査委員会英文誌）		宮内惣	宮崎清
杉下哲*（作品審査委員会）		森典彦	山中敏正（担当）
委員会等担当	担当		
Design シンポジウム担当	松岡由幸（代表委員）	小野健太 小林昭世	加藤健郎* 佐藤浩一郎* 永盛祐介
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸	加藤健郎*	佐藤浩一郎*
IASDR 担当	山中敏正	小野健太	
日本学術会議担当	小林昭世(第一)	村上存* (第三)	
日本工学会担当	小野健太		
横幹連合担当	蘆澤雄亮		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		

運営会議	小林昭世 松岡由幸 佐藤弘喜 杉下哲* 小野健太 寺内文雄 久保光徳 村上存*	蘆澤雄亮 平松早苗 大島直樹 生田目美紀 山中敏正 加藤健郎* 佐藤浩一郎*	
選挙管理委員会 ※2021年7月31日まで	委員長 永盛祐介	委員 森岡大輔 加藤健郎 吉澤陽介 中島瑞季	

監事	國澤好衛	蓮見孝
----	------	-----

2020年度 日本デザイン学会組織



2020年度事業計画

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

2020年度は、論文集「デザイン学研究」に掲載される研究領域の実質的な拡充を図ると同時に、査読システムを改善し、デザインに関わる研究者および実践者間の学術的な意見交換の場を構築することを活動目標とする。また昨年度に継続して、英文誌と和文誌それぞれに担当委員を割り振り、英文誌“Journal of Science of Design”については村上存委員長を中心に学術水準の確保と国際的認知度の向上を推進していく。

昨年度の秋季大会で開催した「新しい論文のかたち」での意見交換を踏まえ、これまで以上にデザイン実践、デザイン教育に関する論文の投稿も、「学術論文としての価値」、「読者にとっての価値」を念頭に置き、積極的に受け入れたい。そのためには、会員の皆様には、投稿者と査読者の両面の視点から、論文審査（ピアレビュー）を通しての意見交換に参加していただき、「新しいデザイン学の枠組み」を構築していくことにつなげていきたいと考えている。昨年度に続き、積極的なご投稿と論文審査へのご協力をお願いしたい。

【和文論文】委員長 久保光徳、委員 加藤健郎、佐藤浩一郎、伏見清香

【英文論文】委員長 村上 存、委員 アルバレス・ハイメ、小山 慎一、柳澤 秀吉

作品審査委員会

委員長 杉下 哲

2020年度は、今期体制のもとで論文集、研究発表でデザイン事例を増やす仕組みを整備する目標などを示されてもいるなか、「デザイン学研究・作品集」の、より一層の充実を目指す。予定する26号は、コロナ禍の社会状況ではあるが、これまで同様

に2月刊行に向け、8月20日～8月31日を「作品論文」「作品ムービー」の投稿期間とし、その後審査を開始する予定である。今後の広報ならびに日本デザイン学会Webページをご確認いただきたい。皆様が設計・制作したデザイン成果とその実現過程での研究・開発や思考プロセスなどの発表に、今後とも貢献する所存である。特には、上記も含めたより投稿し易い仕組みづくりを更に努めるとともに、作品集の在り方も深めたい。作品審査委員会メンバーは、委員：杉下哲、岡本誠、上綱久美子、佐々木美貴、山内貴博および幹事：数名を予定している。

学会誌編集・出版委員会

委員長 寺内 文雄

2020年度の特集号は、2冊の刊行が計画され、すでに28巻1号(103号)「なぜ、こどものためのデザインに取り組むのか」(担当:工藤芳彰)が刊行された。もう一つは28巻2号(104号)「人口減少時代の環境デザインを考える:令和のデザイン・サービス」(担当:清水泰弘、森山貴之、水津功、山本早里)が10月に刊行予定である。今後も会員の皆様からデザイン学会にふさわしい魅力ある企画・ご提案をいただきたい。委員:寺内文雄、山本早里、曾我部春香、井関大介。

研究推進委員会

委員長 小野 健太

研究推進委員会の主な活動は、1. 研究部会の活性化、2. 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3. 秋季企画大会における企画運営などである。2020年度においても、これらの活動を諫々と推進していきたいと思う。また新型コロナの影響により、研究発表の在り方自体について早急に考え直す必要があり、いかにデザインに関する知を積み上げるかという視点から、他の委員会と連携しながら、新しい研究発表大会の在

り方について模索していきたいと思う。2020度担当理事・幹事: 蘆澤雄亮、柿山浩一郎

企画委員会 総合企画

委員長 生田目 美紀

企画委員会[総合企画]の主たる任務は、春季および秋季の大会運営である。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、春季研究発表大会は中止となり、秋季企画大会のこれまでどおりの開催も不確定の状況である。実施内容の詳細については、各自、学会ホームページや開催校サイトで確認されたい。とはいって、委員会としては、新型コロナ禍後の新しい学会活動を試行していかなくてはならないと考えている。諸会員の協力をお願いしたい。委員は本年度より、生田目美紀、工藤芳彰の2名である。

企画委員会 支部企画

委員長 平松 早苗

コロナ後の“新しい生活様式”は、既にスタートし、オンライン会議など着実に場所的な距離感に変化をもたらしている。支部企画の進め方もそれに対応した形への移行が可能となっているように思える。

その一方で、場所性を持つ地域の特徴や学びの方法が保持され、一元的な方向性(一極集中)も変わってくるのではと思える。

支部企画では昨年度の「教育成果集」の企画を継続し、学会の主な構成である大学以外に、今、学びの機会を模索している全国の高校等に向けて、その場や教育の内容を紹介する機会を提供できるように考えている。過去2回の実施の中で出てきた課題や可能性を、支部間で連携を図りながら実施したいと考える。

作品の応募について、会員の皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げる。

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

2020年度は、学会活動方針である「研究・教育基盤の向上」を目的とした「教育」の活動を主として推進していく。

本年度は、デザイン学における教育や研究に関わるニーズを学会員から抽出し、それらに対応した講習会やセミナーを検討していく。また、あわせて、2020年秋上梓した『デザイン科学事典』をはじめとした教科書的な市販教材を用いた講習会やセミナーの実施の検討も進めていく。さらに、他団体との連携やリカレント教育を視野に入れたセミナーの検討も行い、社会的貢献と学会の知名度向上を目指していく。

広報委員会

委員長 大島 直樹

本年度の広報委員会は、Web サイトを通じた広報活動の強化に努める。

具体的には、本年度は新たな理事組織となることもあり、支部や研究部会が自ら Web ページの情報更新できる仕組みを支部や研究部会に周知し、最新情報への更新を促す。またニュース投稿できる仕組みも支部や研究部会、委員会に周知し、情報配信の活性化を促す。これら Web サイトの情報更新やニュース投稿を促進させるため、それらの方法を説明するマニュアルの改定と充足を図ることを目標とする。

また現在の Web サイトをリニューアルしてから 5 年が経過した。ユーザビリティの向上などを見直し、リデザインも検討していく。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

本部事務局等と連携し、収支計画に係る会員数のタイムリーな把握と、会員管理のための経費削減を目指し

「会員管理システム」について導入を図りたいと考えている。

新たな財源の確保や支出の圧縮を進めるために今年度の活動計画として、学生会費、大会参加費などの見直しに注力する。そのほか、財務基盤の健全化への取り組みを継続して行う。委員は本年度より、生田目美紀、小野健太の 2 名である。

年である。

本学会からの委員は、松岡由幸、小林昭世、小野健太、加藤健郎、佐藤浩一郎、永盛祐介。

デザイン関連連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

当学会 2016 年の秋季大会において、芸術工学会、意匠学会、基礎デザイン学会、道具学会の各会長が集い、デザイン哲学に関する議論を実施した。本シンポジウムは、それを機に、毎年、この日本におけるデザインに関する 5 学会が集い、哲学などさまざまな横断的な議論を行う場である。

2019 年度は、道具学会が幹事学会となり、慶應義塾大学にて実施した。今年度については、基礎デザイン学会が幹事学会となり、10 月 3 日（土）に名古屋芸術大学にて実施予定である。テーマは「デザインの始源」としているが、現在、コロナ禍の状況を鑑み、実施の方法を検討中である。

IASDR 担当

担当理事 山中 敏正

今年度の学会各賞審査委員会は以下の構成で実施致します。

委員長：庄子晃子

委員：青木弘行、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮崎清、宮内恵、森典彦、山中敏正

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

本シンポジウムは、日本デザイン学会をはじめ、デザインや設計を上位概念とする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。2020 年度は、精密工学会が幹事学会として、2021 年 7 月に東京大学駒場キャンパスにて開催を検討しており、それに向けた準備の

新体制になったところだが、これまでの理事会の運営とプロセスが異なるため、副会長、事務局長などの指名が遅れていた。さらに新型コロナウイルスによる各国の閉塞状況が続く中、開催が遅れている理事会を開催し、2021 年大会に向けて、この体制で運営を進めることとなる。

今年度注力すべきは 2021 年大会への準備であるが、さらには、メンバー学会との協力関係の更新と強化に努めいくことになる。2021 年大会は香港開催が決定しているが、政情の動向も勘案しながら、慎重な判断が求められる。

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

担当理事 小林昭世

日本デザイン学会を含む16学会よりなる藝術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2020年度は、コロナの影響で、6月に準備していたシンポジウムを来年度に延期することになった。

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事 蘆澤 雄亮

昨年度に引き続き、コトつくり至宝発掘事業として「コトつくりコレクション」の第3回選出が実施される予定であり、学会としても積極的に関与していく予定である。可能であれば、本年度は当学会からも何らかの推薦を行いたいと考えている。なお、毎年実施している横幹連合コンファレンスの本年度大会は、2020年10月8日(木)、9日(金)に統計数理研究所(東京都立川市)にて開催予定である。

日本工学会

担当理事 小野 健太

日本工学会は、約100学協会により構成される工学系学術団体である。本年度は新型コロナの影響により、事務研究委員会は秋まではメール、オンラインでの開催となっている。昨年度に引き続き、公開シンポジウム、委員会へ積極的な参加を通じて、研究や運営など有効な情報交換を行いたい。

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

日刊工業新聞主催の機械工業デザイン賞に日本デザイン学会賞が2018年度より創設された。2020年度は、第50回機械工業デザイン賞の応募を3月まで受けつけ、現在、審査を進行している。

第1支部

支部長 横溝 賢

第1支部は、第11回目の支部大会を10月4日(土)の予定で開催(幹事校:岩手大学)する。本年度は支部大会11回目にして初の岩手開催でしたがコロナ禍収束の目処が立たないことを鑑み、オンラインで支部大会を開催する予定である。これまで第1支部では2つの考え方を大切に学会活動をおこなってきた。ひとつは開催地のまちなかに出向き、その土地の風土を味わい学ぶ表現活動を行うことである。もう一つは学生や社会人、市民、教員がフラットな関係でデザイン学交流をはかることである。実地ではできないものの、本年度はこの2つの特徴をいかしてオンライン学会を計画する。

具体的には第1支部における「地域を味わうデザイン活動」を、支部会員や地元盛岡の市民だけでなく他地域の市民活動家や社会人、学生や教員にも開き、地域デザインの可能性を参加者らと共に考える研究交流を促進する。そのほかオンライン・フィールドワークの試みや研究発表と議論の内容をリアルタイムで視覚化共ができる発表形式も模索したいと考えている。

本大会の開催概要は詳細が決まり次第、Webなどで告知する。また本年度も昨年に引き続き、第1支部との結びつきが弱い、福島県との活動連携を模索し、支部内の会員間交流の活発化や新規会員の増加を目指す。

第2支部

支部長 平松 早苗

東京オリンピック2020が1年延期となり、また昨今のコロナの影響で、“おもてなし”の形も変わってきつつある状況の中、長く「おもてなし～コミュニケーションデザイン」の実践の場として、伝え続けられている日本の伝統芸能の施設への見学を、引き続き

検討し開催する。

年度企画の教育成果物を紹介する「教育成果集」は、昨年度と同様に支部企画として実施し、実質的な作業を第2支部で担当する。昨年度の実績を踏まえ、より広く多くの作品を見ていただけるかたちを考えている。作品の応募について、会員の皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げる。

第3支部

支部長 潟本 成人

第3支部では、今年度も会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため、支部研究発表会と懇親会を実施する。発表内容はISSNを取得した第3支部研究発表会概要集にまとめ、国立国会図書館に収録する。この発表会では学生の優秀な研究発表とポスター発表を対象とした優秀発表賞を設けている。次に学会会員が所属する大学の卒業研究に対し、大学院生博士後期課程2名、前期課程2名、学部生2名に奨励賞を贈る。また、今年度は研究発表会会場校の新規開拓と幹事会メンバーの増員等の強化体制を進めていく。

第4支部

支部長 益岡 了

第4支部では関西地区における学術研究活動を実施し、デザイン学的な成果を得てきたが、今年度に関してはその交流活動について大きな改革が求められている。従来の研究発表会や支部内の会員、デザイン学生の交流については積極的にオンラインでの活動を念頭に計画・スケジュールの再検討を行い、ポストコロナを見据えた活動への移行を目指す。特に学生会員を含めた各会員の活動支援と連動を図る。

第4支部エリアもその管轄が広域であり、全支部的な交流については様々な課題が散見してきた。オンラインを含めた活動は従来の支部活

動を補完するうえでも長年検討されてきた課題だが、今後は早急な対応が求められる。会員の移動などの影響もありオンライン化の難しい支部関連の各種研究会については、その活動方針の確認を行うとともに、実践的なデザイン活動を推進するためのWEBを含めた連携を目指す。また近畿・中国・四国地区には様々なデザイン資源や組織があり、それらを横断できる組織作りが主要なテーマとして提案される。これらの活動を通じて地域間・大学間連携による議論の創出し、地域ネットワークの拡大と円滑なコミュニケーションを重視した支部活動を推進する。

道具学会などの他のデザイン系関連学会支部との共催事業や学生参加も念頭に入れた新たな支部内の交流への取り組みを、支部メンバーの協力を得て検討する。

第5支部

支部長 田村 良一

2020(令和2)年度は、10月下旬、九州産業大学を会場として、通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じる「研究発表(口頭発表形式・ポスター発表形式)」と、研究や作品が未完であっても発表練習や聴講者との意見交換などを目的とする「ライトニングトーク」の2発表区分とする「2020年度第5支部発表会」を実施する予定である。また、昨年度に引き続き、PDF概要集の代替として「MediaWiki」を利用する予定である。

多くの皆様の本発表会への参加および発表を歓迎する。詳細が決まり次第、第5支部からWeb等を通じて、会員の皆様へご案内を差し上げる予定である。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響から、具体的な実施方法などについて変更する場合がある。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

本年度は新型コロナウイルスの問題から異例の状況が続いており、今後の学会活動についても従来とは異なる対応が求められると考思われる。具体的には、理事会や各委員会などがリモートで行えるように、学会としてWeb会議システムの契約を行う予定である。また、事務局業務の効率化のために、会員管理システムの導入を計画しており、その準備作業を進め、次年度より本格的に稼働させる予定である。このシステムの導入により、かねてより懸案であった、会員の定着率向上や会費徴収率の向上も期待される。また、各会員の立場からは入会や会費納入などの各種申請や手続きの利便性向上が期待される。

また困難な社会状況が続く中でも従来同様、各委員会や研究部会、支部活動に対するサポートなどを推進し、学会活動を支援していきたい。事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく所存であり、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。

教育部会

主査 金子 武志

年間テーマは特に設定せず関係の方々からのリクエストや旬な話題に応じたフレキシブルな研究会を年2～3回実施する予定。基本的には会員、非会員問わず誰でも自由に参加できる場を準備している。

私たちはデザイン教育を起点に「教え学ぶ」という人々の根本的なあり方を広い視野で見つめて行く必要性をここ数年感じている。「デザイン」が「もの」に対する観点から「こと」「こころ」「関係性」にまで広がりをみせ、同時に非常に多岐にわたるジャンルや領域を内包していることから現在では学校教育という枠を越え、家庭、地域、企業、各種メディアなど、社会のあらゆるところに教育の場と機会が存在する時代となった。今や「デザイン」は一部の専門家の所有物ではなく、そのための教育も(教えることも学ぶことも)様々な

立場の人達と共に考えていく時代である。「デザイン」が「自然」「社会」「人間」を有機的に繋いでいく術であるとすれば、デザインの仕事に直結するデザイナー教育に限らず、創造性をはぐくみ人間性を高める教養としてのデザイン教育もある。

こどもや老人のためのデザイン生涯教育、一般企業の中のデザイン教育、人々が豊かに暮らすための地域市民のためのデザイン教育。．．．これらについて現在の教育機関を越えたところで誰もが自由に語り合えることを目指していきたい。

今年度も視野を拡げたテーマを見つけて多くの方々と対話したいと考える。具体的な予定としては、2019年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止になった、デザイン教育研究会の企画『蒐集についての一考察～モノとの縁、ヒトとの縁～』(発表者：中川 英之、gallery 坂オーナー)をリニューアルして開催する予定。開催時期としては、新型コロナウイルス感染症の影響がある程度終息し、社会活動全般の回復を注視しながら再調整を試みる予定。

環境デザイン部会

主査 山内 貴博

本年度の環境デザイン部会は「サステイナブル環境デザイン」をメインテーマとし、昨年度から行っている「人口減少時代の環境デザイン」のあり方を考えることを継続する。人口減少は現代日本のかかえる切実な問題であり、都市部の環境デザインの実情の考察と今後の方向性を考えると共に、過疎化が進む地方の実態とそこで必要な環境デザインのあり方を考える内容である。従来の環境デザインにプラスされた新たな考え方方がそこには必要とされている。SNS社会においてコミュニティのあり方も変貌してきている現代、環境デザインの見地から地域コミュニティを如何に取り戻すのかも課題となっている。リノベーションのあり方、地方の農業、林業と環境デザインの接点

を考えること、廃棄された農地の利活用や、国産木材の利用法など、より広範囲な持続可能な環境デザインを考えることを目指す。

活動としては、部会員が全国各地で行っている研究を、特集号や研究発表大会を活用しながら情報共有・相互理解を深め、場合によって当該事例の視察・見学会を行うことを予定している。創設時から続く部会の会報「ED Place」は、これまで同様に、年間3回の発行を予定している。電子化による発行を拡大深化するため、部会内はもちろん、部会外への発信なども検討する。また、部会員の企画・実行に関わる様々な支援に努め、部会の活性化を図る。

これら予定は、6月の部会総会で協議して具体的な内容を定めるが、積極的に環境デザインを考えるという部会の趣旨の元、上記の他にも追加企画などを検討していく所存である。部会員相互の研究の深化と実行を中心に、学会内外の協力を得て、本年度も活発に進めていきたいと考えている。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●春季大会テーマセッション、キーノート講演

第67回春季大会（岡山県立大学・2020年6月26～28日）において、テーマセッション－家具・木工部会：「伝統的資源と現在学」を開催する予定であった。また、この枠内で、キーノート講演「木製家具デザインにおける今後の課題」（石村真一氏・名誉会員）を開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春季大会が中止となつたので、上記テーマセッション及びキーノート講演は中止となった。また、同大会のエクスカーションでは、岡山県内の家具・木工製造会社・販売会社を訪問する予定であったが、それも中止となった。

●総会

例年、春季大会の家具・木工部会テーマセッション開始前後に総会を開

催してきた。2020年度は春季大会が中止となつたため、総会は持ち回り審議、またはオンラインにて実施する予定である。

●部会報「家具・木工通信」

家具・木工部会員の原稿で構成する部会報「家具・木工通信」を発行する予定である。春季大会で予定していたキーノート講演「木製家具デザインにおける今後の課題」（石村真一氏）を所収する予定である。

●その他

家具・木工部会の研究発表会・総会のオンライン開催を検討中である。

デザイン科学研究部会（旧 デザイン理論・方法論部会）

主査 松岡 由幸

本年度より、当部会の名称を、従来の「デザイン理論・方法論研究部会から、「デザイン科学研究部会」へと改称する。

もう10年以上前になるが、本部会とデザイン塾（松岡主宰）が主導して立ち上げた「デザイン科学事典編集委員会」の活動のもと、昨年10月に「デザイン科学事典」（丸善出版）を上梓した。これに伴い、デザイン科学の定義・枠組みの共有と現有課題を明示できたことに伴う、部会名の変更である。

本年度は、コロナ禍による春季大会中止などで例年通りの活動が難しくなっているが、デザイン塾や教育・資格委員会との共催を視野に入れ、デザイン科学の研究と教育をさらに進めていく。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

今年度より大阪工業大学の赤井が部会主査を務める。残念ながら春季研究発表大会および部会テーマセッションが中止となつたが、5月発行の特集号「なぜ、子どものためのデザインに取り組むのか」を契機として、さらなる部会活動の充実をはかりた

い。新規入会を含め、学会員の積極的な参加を期待したい。部会サイトは以下のとおりである。研究や部会員の活動に関して積極的に情報共有したい、ご希望の方は主査または幹事までおしらせ頂きたい。

（https://www.facebook.com/design_for.children.jp/）

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

次年度の主な活動は、1)日本デザイン学会春季研究発表大会でのテーマセッションとオーガナイズセッションを予定していたが中止となつたため、独自のイベントの開催を予定している。

2)関連団体(人間中心設計機構、Xデザインフォーラム等)とのイベントの開催、3)プロダクトデザイン研究に関連する情報発信と共有(Facebook プロダクトデザイン研究部会)を予定している。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 寺内 文雄

昨年度に引き続き、当該分野と関連の深い「デザイン科学研究部会」と連携するとともに、様々な領域の方々と議論を進めていく。それらを通して、タイムアクシスデザインの本質や原理の明確化や具現化するための手法を提案していく予定である。

本年度は特に、AI、IoT、ビッグデータを背景としたデータ駆動と既存科学知を礎にしたモデル駆動の統合に着目した時間変化モデルの基礎構築やそのメカニズムに焦点をあてた研究活動を推進していく。なお、大きな組織の改編も実施予定である。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

2020年度は、秋季研究発表大会においてオーガナイズド・セッション「先端医療・ヘルスケアからの社会へのアプローチ」における発表と活発な議論から学術的視点に立ったメディカルデザイン：臨床医療デザイン学の検討の場とする事を計画している。

2020年度の日本病院学会が新型コロナウィルス感染症により開催中止の決定がされたことにより、次回開催される2921日本病院学会において「HOSPITAL 5.0」と言うテーマでセミナーを行なう。

9月26日に、東京の東京都看護協会会館で開催される日本ヘルスケア・ダイバーシティ学会の全国大会：大会テーマ「ダイバーシティええよお多様性を価値にするマネジメント」においてセミナーを予定している。その場で各分野の専門家からの意見をいただき臨床医療デザイン学分野での問題解決手法を新たにしていきたいと考えている。

引き続き、バイオメディカル研究部会では医学、保険学、ヘルスケア、生物学、工学とデザイン学の境界領域として考えられる広い範囲のテーマに興味を持つ研究者、技術者、実務者のための場となることを目的とし

- (1) バイオメディカルデザインの枠組みづくり
- (2) バイオメディカルデザインの方法論や実践を通しての手法の確立
- (3) バイオメディカルデザインの実践について研究を行う予定である

情報デザイン部会

主査 横溝 賢

情報デザイン研究部会では、下記の項目を活動ビジョンとして位置付けている。

- ・デザイン実践者たちが自らの実践を題材とし、研究を構築し、継続できる文化を創る。
- ・個々のデザイン実践について、研究として形にしていく場を作る。
- ・その上で「デザイン知」について、他学会など、多様なフィールド（場）

で議論できる関係をつくっていく。

- ・「デザインの実践」を研究のカタチにする。さまざまな「実践におけるデザインの知のはたらき」についての具体的な記述を集める。

これらのビジョンのもと、本年度は春季研究発表大会において「実践者のデザインの知のはたらき」というテーマセッションを設け、実践を研究の形に整える場づくりを行う予定であった。しかしこロナ禍により大会が中止になったことを受け、本部会では部会のセッションをオンラインで実施する予定である。

セッションではオンラインという特性を生かし、社会人や他学会に対してもオープンな形で開催する。そして部会内外からの「デザイン知」を集め、実践を研究の形に整えることを目標とする。このようなオンラインセッションを年間で複数回実施することを通じて、研究者だけでなく学生や社会人らが自らの実践を持ち寄り、語り合うことから、実践を論述するための知識や技術を学び、他学会へも投稿できる活動にしていきたい。

2020 年度 予算

[一般会計]

■ 収入の部

項目	予算額	予算額内訳
2019年度繰越金	18,127,120	
1 会費(現)	16,234,400	正会員@13,000×1,445名×0.8(徴収率) 学生会員@6,500×232名×0.8(徴収率)
2 会費(新)	2,090,000	正会員@18,000×80名(一般 入会金: 5,000. 年会費: 13,000) 学生会員@6,500×100名(入会金: 免除, 年会費: 6,500)
3 貢助会員費(現)	920,000	30件
4 貢助会員費(新)	30,000	@30,000×1件
5 年間購読会員費(現)	1,150,000	@25,000×46件
6 年間購読会員費(新)	25,000	@25,000×1件
7 広告費	50,000	@50,000×1件
8 学会誌掲載料	2,595,000	論文掲載料((@40,000×8報)×6冊) 作品集審査費(@3000×25件) 作品集掲載費(@40,000×15報) 2019年度作品集掲載費(@40,000×0件)
9 春期研究発表大会	1,000,000	@3,000×200人+@2,000×200人
10 秋季企画大会	500,000	
11 雑収入	150,000	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 寄付
計	42,871,520	

■ 支出の部

項目	予算額	予算額内訳
本部事務局 & 理事会関係	11,189,280	
1 本部事務局経費	10,489,280	消耗品代 運営経費(春季, 秋季大会出張費用含む) 職員給与(@180,000×12,@230,000×2) +(@150,000×12, @75,000×2) 通勤費(@6,000×12) +(@ 13,820×4, @6,000×12) 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料(@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費および時間外手当 経理業務コンサルタント料 会員管理システム利用料 オンライン対応経費 租税公課 法人税、住民税及び事業税 労災保険料
2 理事会運営費	700,000	会場借用料、理事会運営経費等
3 選挙経費	0	選挙に関する費用
学会誌審査・編集関係	1,465,000	
4 論文審査委員会経費	700,000	
5 作品審査委員会経費	275,000	
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000	
7 特集号編集委員会経費	390,000	第28巻1号編集委員会 第28巻2号編集委員会 第29巻1号編集委員会
学会誌印刷・通信関係	13,741,000	
8 印刷費	12,741,000	2019年度論文集(0冊) 2019年度特集号(1冊), J-stageへデータ掲載(23巻1号～28巻1号) 2019年度作品集(0冊) 論文集(@30,000×10報)×6冊 特集号(@2,500,000×2冊) 作品集(@35,000×20報) 論文集・作品集のオンライン印刷費(@1000×7冊+@3700×1冊)×130件 概要集CD(150セット) 封筒代
9 出版物通信費	1,000,000	郵送料・事務代行料金

大会関係	2,805,000	
10 2020年度春期研究発表大会	700,000	700,000
11 2020年度秋季企画大会	500,000	500,000
12 2021年度春期研究発表大会(準備金)	500,000	500,000
13 春季大会概要集編集委員会経費	550,000	活動費 演題登録システム(PASREG) 利用料、データ変換料
14 春季オーガナイズド セッション費用	0	@80,000×4件(中止)
15 春季キーノート 講演費用	30,000	@30,000×1件
16 学会セミナー費用	100,000	100,000
17 総会準備経費	60,000	総会経費、委任状・資料印刷代
18 学会各賞選考委員会経費	100,000	資料作成費・記念品代
19 国際デザイン会議	65,000	国際デザイン会議会費 (500 \$) 国際デザイン会議活動費
20 Designシンポジウム補助費	0	0
委員会関係	1,500,000	
21 委員会経費	200,000	共通費
22 研究部会共通経費	500,000	共通費(現行19研究部会)
23 支部活動補助費	750,000	@150,000×5支部分
24 市販図書企画・編集経費	50,000	編集費
広報関係	250,000	
25 広報費	250,000	大会ポスター・通信費、パンフレット作成費 ホームページ管理・運営
その他	12,121,240	
26 学協会関連	335,000	学術会議活動費(@30,000+@30,000) 芸術学関連学会連合シンポジウム分担金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 日刊工業新聞社 デザイン関連学会活動費
27 手数料	11,786,240	
計	42,871,520	42,871,520